

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 下顎に *IOD (Implant over denture)*
上顎に *IARPD(Implant-assisted removable partial denture)*を用いて補綴した一症例

演者名 関 喜英
日付 2013年 10月22日

keyword 1 IOD、IARPD (ISPD)
2 受圧と加圧
3 ガイデッドサージェリー

【抄録】

全部無歯顎、部分無歯顎に対してインプラントを用いた補綴処置を行う場合、必ずしも固定性補綴物が最良の選択になるわけではない。患者の年齢、骨量や解剖学的形態、経済的な負担等を考慮すると、可撤性義歯にインプラントを組み込んだ *IOD* や *IARPD* の方が患者にとって受け入れやすく、より効果的な治療オプションとなる場合もある。

義歯床下にインプラントを埋入することで、通常可撤性義歯よりも維持や支持が改善され、審美性の向上や更なる咬合崩壊の抑制効果も期待できる。

IOD、または *IARPD* を選択するケースにおいては、骨量が少なくなっていることが多いために、より解剖学的形態に配慮して的確に埋入を行う必要がある。CT撮影後のコンピューターシュミレーションをもとに作製されたサージカルガイドを用いる事もそのために有効な手法と考えられる。

今回、発表するのは上顎に *IARPD*、下顎に *IOD* を適用した症例で、まだ最終補綴前の段階である。会員の皆様からは、これまでの治療経過の評価と、今後の、補綴からメンテナンスまでの注意点などのアドバイスを頂ければ幸いである。